

平成31(2019)年度 岡本特別支援学校 学校評価シート

教育目標	児童生徒の病状、障害に応じた教育を行い、一人ひとりの個性、能力、創造性を伸ばし、社会に参加、貢献できる人間を育成する
学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの人権を尊重し、児童・生徒・保護者のニーズに応じた教育の推進 ○ 安心・安全・信頼される教育環境と危機管理体制のさらなる改善と整備 ○ 学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりの推進 ○ 教職員が一人一人の力を発揮する、やりがいのある学校づくりの推進

【A】達成できた 【B】概ね達成できた 【C】改善が必要

重点目標(推進担当)	評価項目	現状	達成目標	評価の観点	評価	改善策
<p>○ニーズに応じた教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い人権感覚の醸成 ・病弱教育の専門性向上のための研修や授業研究の推進 ・教材の工夫とICT機器の活用 ・キャリア教育の視点に基づく個別の教育支援計画の活用 ・進路希望の実現 ・入院児童生徒の前籍校へのスムーズな復帰支援 	<p>【小学部】</p> <p>教材の工夫とICT機器の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な児童の実態があり、学部内の協力体制が必要になっているため、学部内での情報交換、指導内容の検討に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の情報を共有し、有効な指導法や教材について考察・実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場を設定し、指導内容や方法についての意見交換と検討が実施できたか。 	<p>【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動や日常生活の指導では共通理解の場をもつことができ、情報交換や指導法の話し合いなどを行うことができ、皆で共通理解して取り組むことや指導法の改善なども行うことができたが、他の教科についても実践方法等について考察していけると良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き情報共有の場を設定しながら、指導や実践方法等について皆で話し合い、学部全体で検討して取り組んでいけるような取り組みを考えていく。
	<p>【高等部】</p> <p>・教材の工夫とICT機器の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の状態により、朝からの登校が難しくかったり、入院や通院により欠席が多くなってしまったりする生徒がいる。 ・授業の活動等で心身に負担がかかる生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院等で登校が難しいときに、インターネットで生徒と学校をつないで学習空白の時間を減らす。 ・授業に有効なアプリを使って、心身面の負担を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人のニーズに応じてICT機器を活用し、学習空白や心身面の負担を軽減することができたか。 	<p>【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ入院中や登校が難しい生徒に対して、ICT機器(zoomやskype)を活用して、遠隔授業をすることができた。しかし、教員全員が活用するためのスキルは、まだ身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の教員全員が遠隔授業のネット環境を設定できるように、全員で受講後、順番につなぐ研修を受ける。
	<p>【おおるり分教室】</p> <p>ICT機器の活用による学習環境の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入院中、病状により病室から出ることができなかつたり、地元校との繋がりをもちにくかつたりする児童生徒がいる。 ・ポケットWi-Fiが2学期から導入される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟と分教室等をインターネットでつなぎ、友だちとの交流や同時双方向型の授業を実施することができる。 ・地元校とインターネットでつなぎ地元校の友だちとの交流を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、病院内での児童生徒同士の交流や同時双方向型の授業を実施することができたか。 ・ICT機器を活用して入院している児童生徒が地元校との交流を図ることができたか。 	<p>【 A 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・360° カメラ、テレプレゼンスロボット、ポケットWi-Fi等を利用して病棟と分教室をつないだ授業やより体験的な授業を実施することができた。 ・地元校との通信は地元校の通信環境や、児童生徒の状況によって実施することが難しく、1校のみの実践であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は分教室職員がICT機器を活用した学習活動や、前籍校との遠隔通信により積極的に取り組み、活用の拡大と学習の充実を図る。
	<p>【教務部】</p> <p>・教材の工夫とICT機器の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・360° カメラやweb会議システムなど、新たなICT機器やサービスが増えている。 ・各職員が、タブレット端末やノートパソコン等を必要に応じて校務や授業に取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やweb会議システム等を校務や授業等で広く活用できるよう、適切な活用法を啓発することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニ研修などを利用して、ICT機器の活用法を広めることができたか。 ・新たな機器や各種サービスのマニュアルを整備し、周知できたか。 	<p>【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな機器や各種サービスのマニュアルを整備し周知した。 ・Web会議システムを利用して、部会、研修、研修報告会を行い、システムについて改善を図った。遠隔授業も実施できた。 ・徐々に授業等でもICT機器を活用できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を誰でも活用できるよう、更に実践を積んでいく。 ・校内のICT活用の取組について校内で共通理解を図る。 ・先進校の取組例についても周知していく。
	<p>【学習指導部】</p> <p>・個別の教育支援計画(指導計画)に記載された実態や目標にあわせた分かりやすい授業を展開できるよう、指導力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員で教科等部会が組織され、情報交換や年間指導計画の作成、教科書選定、教材の管理を行っている。昨年と一昨年は、複数の教科等で授業研究会が実施された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等部会を中心として授業見学・情報交換会を実施し、授業改善と専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学・情報交換会を実施し、互いの授業の実態や困り感を共有し、授業改善のために意見交換をすることで教師としての見識を広めたり、実際の授業改善に役立てたりすることができたか。 	<p>【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5教科等で授業見学会が実施された。分教室(道徳、映像)や、やしお学級(生単、病棟内)でも実施され、視聴、見学された所属以外の教員の見識を広めることができた。その他の教科等でも情報交換が随時行なわれ授業改善につながってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1教科と領域を合わせた指導等1つの2つの所属に絞り取組やすくする。 ・授業見学会を実施する教科等は年度当初に指定する。(数年で全教科等が実施) ・教科等部会は学期に1回開催日を設け、それ以外は随時行うようにする。
	<p>【進路卒後支援部】</p> <p>・キャリア教育の視点に基づく個別の教育支援計画の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育全体計画の重点目標の中から1つ取りあげてもらい、各学部ごとにキャリア教育を実践を進めている。その様子を進路だよりに掲載し、全体で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部のキャリア教育の実践内容をHPに掲載したり、校内に掲示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP掲載や校内掲示を通して、キャリア教育の実践について共有することができた。 	<p>【 B 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実践の様子は進路だよりに掲載し、HPにも掲載予定であるが、職員に実践計画を周知するのが遅くなり、取組が遅れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度早めに通知し、実践の時間を十分にとれるようにする。 ・HP掲載は基本的に進路卒後支援部のページに載せ、他学部・学級にはリンクできるようにして見やすくし、地域への周知を図る。

重点目標(推進担当)	評価項目	現状	達成目標	評価の観点	評価	改善策
<p>○安心・安全・信頼される学校環境と危機管理体制の改善と整備</p> <p>・自分の身を守る避難訓練、健康・安全指導の実施</p> <p>・感染症やアレルギー対応等に対する職員研修の充実</p> <p>・ヒヤリハット事例の集約と共有</p>	<p>【中学部】</p> <p>・自分の身を守る避難訓練、健康・安全指導の実施</p>	<p>・交通安全教室、避難訓練等の事前指導・事後指導を生徒の実態に合わせて取り組んでいる。</p> <p>・意識して指導する内容の共通理解が図れている。</p> <p>・学習した基本的な対応はできるようになっているが、場面に応じた対応については課題がある。</p>	<p>・健康・安全指導の充実を図る。</p>	<p>・避難訓練などの行事と関連づけて、防災意識を高めるための学習内容を充実させることができたか。</p> <p>・防災意識を高める場について検討し、設定できたか。</p> <p>・生徒に学習の内容を活かした行動等がみられたか。</p>	<p>【B】</p> <p>・避難訓練の事前事後学習をしっかりと実施することができ、実際の地震の際に自ら身を守ろうとする行動がみられたなど成果が現れている。防災についての意識を高めることができた。</p> <p>・学部として防災意識を高めるための場について検討し、設定する機会がもてなかった。</p>	<p>・継続して防災意識を高めるための取り組みをしていく。</p> <p>・生徒一人ひとりの実態に応じて対応の仕方の共通理解を図っていく。</p> <p>・学部としての取り組みを具体化して実施できるようにする。</p>
	<p>【やしお院内学級】</p> <p>・緊急時を想定した避難訓練や研修の実施。</p>	<p>・やしお学級の日課時間割の都合により、児童生徒が学校の避難訓練に参加できないことがある。</p> <p>・防災マニュアルを再確認し、必要な資料について検討中。</p>	<p>・学校の避難訓練に合わせて避難訓練や研修を実施する。</p> <p>・校外での事故発生時の対応についての資料を整え、共通理解を図る。</p>	<p>・それぞれの避難訓練に対し、事前の確認や参加、振り返り、または準じた研修を実施することができたか。</p> <p>・事故発生時の対応について、分かりやすく使いやすい資料を作成することができたか。</p>	<p>【B】</p> <p>・避難訓練への参加が定着してきたが、今後も緊急時を想定した様々な取り組みができることよい。</p> <p>・事故発生時のマニュアルについて、見直し、改善を図ることができた。緊急時の対応(掲示マニュアル)を作成したが、分かりやすさについては改善が必要。</p>	<p>・やしおの教員全員が、いずれかの避難訓練に参加する。</p> <p>・学校の避難訓練の事後に、登校児童生徒に関わる教員が集まり、振り返りと共通理解をする。</p> <p>・事故発生時の対応については適宜見直しを行う。また、掲示マニュアルの点検を定期的に行っていく。</p>
	<p>【健康安全指導部】</p> <p>・自分の身を守る避難訓練、健康・安全指導の実施</p>	<p>・年5回実施している避難訓練(引き渡し・春の火災地震・不審者対応・秋の火災地震・予告なし)の際には、健康安全指導部担当者や学級担任等が事前事後学習を実施している。</p> <p>・児童生徒の実態や必要に応じて、繰り返し指導している。</p>	<p>・事前学習資料や収集した情報等を教職員に周知し、教職員自らが適切な判断をして訓練に参加することができる。</p> <p>・「自分の身を自分で守る」ことができる児童生徒を育成することができる。</p>	<p>・教職員が適切な判断力を身につけることができたか。</p> <p>・児童生徒が自ら考え、行動することができたか。</p>	<p>【A】</p> <p>・長期休業中に職員対象の防災研修を係が担当して実施した。青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の紹介や県災害用備蓄品を活用しての研修を行ったことで職員の防災意識向上への一助となった。しかし、教科等授業の中で紹介した防災プログラムの活用は行われていない現状である。</p> <p>・児童生徒職員の研修を重ねていくことで、その場に応じた適切な判断や行動につながっていると感じる。避難訓練後の反省等を見てもその様子が伺えた。</p>	<p>・防災教育、防災研修に終わりはないので、次年度以降も継続した研修を実施していく。プログラムを活用しての1時間授業をいきなり行うことは難しいので、身近なことから始めていけるように先生方に周知し、情報を提供していく。</p> <p>・様々な場面を設定して、避難訓練を実施しているが、更なる検討を行い、訓練を重ねていくことで「自分の身を自分で守る」ことができる児童生徒を育成していく。</p>
<p>○関連機関と連携した学校づくりの推進</p> <p>・交流及び協同学習の充実</p> <p>・家庭や病院との細やかな連携強化</p> <p>・学校ホームページの充実と地域への情報発信の充実</p>	<p>【特活・交流部】</p> <p>・本校の理解啓発と情報発信の充実</p>	<p>・学校間交流において、DVD映像やICT機器を活用した間接交流の在り方を検討している。</p> <p>・昨年度より、新たに学校近隣の施設で岡特作品展を実施している。</p>	<p>・積極的に本校の活動内容を発信する。</p>	<p>・ホームページを更新し、児童生徒の教育活動の様子を積極的に掲載できたか。</p> <p>・学校だよりを発行したり、児童生徒の作品展を開催したりして、地域の方々に対して本校についての理解啓発を図ることができたか。</p>	<p>【B】</p> <p>・行事ごとにホームページを更新したが、児童生徒の様子をもう少し発信できるとよかった。</p> <p>・学校だよりを発行したり、岡特作品展を開催したりして、地域に発信できた。</p>	<p>・今後も積極的に児童生徒の様子をホームページに掲載したり、学校だよりの発行や作品展の開催などで地域に発信していく。</p>
	<p>【渉外部】</p> <p>・PTA活動の充実</p>	<p>・活動に参加できる保護者が固定化している。</p> <p>・アンケートを実施し保護者の意見を集め、話し合いに役立てている。</p> <p>・参加できなかった保護者には、活動緒様子が伝わりにくい。</p>	<p>・活動内容・様子・成果などを校外に発信する。</p>	<p>・活動の内容等を校内掲示やホームページ、新聞等で発信することができたか。</p>	<p>【A】</p> <p>・校内掲示やホームページで活動内容を発信できた。</p>	<p>・今年度の取組を引き続き実施していく。</p> <p>・ホームページを見てもらえるように保護者宛通知に載せる。また、アンケートにホームページを見ているかどうかの項目を追加する。</p> <p>・渉外部としてのおおるり分教室のPTA活動の様子を掲載する。</p>
<p>○やりがいのある学校づくりの推進</p> <p>・チームとしての情報共有と協働体制の確立</p> <p>・教職員間の学び合う職場づくり</p> <p>・計画的、効果的な業務の見直し</p> <p>・教職員の心身の健康と安全に配慮した働き方改革の推進</p>	<p>【支援部】</p> <p>・円滑な連携を図るための協働体制の確立</p>	<p>・関係機関等との連携が必要な業務が多いが、担当者以外には業務が見えにくい状況がある。</p>	<p>・支援部業務についてのマニュアルを検証し、分かりやすいものに仕上げる。</p>	<p>・連携を図る業務について、分担や流れを明確にすることができたか。</p>	<p>【B】</p> <p>・支援部業務マニュアル・早期教育相談マニュアルについて、その都度見直しを行っていった。結果、マニュアルの追加、各マニュアルの加筆・訂正を行い、業務の流れを明確にしていくことはできたが、実際の業務に複数で関わっていかなければ、今後、マニュアルを周知していくことは難しいと感じた。</p>	<p>・業務分担について検証し、できるだけ部全体で業務に関わっていけるようにしていく。また、早期教育相談について、支援部教員は必ずケースを担当することで、マニュアルの活用を促していけるようにしていく。</p>